

 <p>J.A.D.E</p>	<h1>ふくりゅう</h1>	特定非営利活動法人 日本下水文化研究会会報
		発行責任者 稲場紀久雄(運営委員会代表)
		編集担当 酒井彰(事務局長) 令和3年9月30日 通巻103号

ふくりゅう 103号 目次

日本下水文化研究会第25回総会報告	1
「循環」と「共生」	佐藤 英雄 2
『江戸名所図会』に描かれた江戸の下水道(2)	栗田 彰 3
小平市ふれあい下水道館での展示企画から	4
運営委員会から	5
Facebookに本会のグループページを作成しました／編集後記	5

日本下水文化研究会 第25回 総会報告

去る6月26日(土)13:30~15:40、連合会館にて、日本下水文化研究会第25回総会が開催されました。当日参加者は18名でした。開会宣言の後、5月26日に逝去された本会名誉会員・評議員の高橋裕先生(享年94歳)に全員で黙祷を捧げました。なお、稲場代表による追悼文は、機関誌33号に掲載されておりますので一読いただければと存じます。

続いて、稲場代表が開会挨拶で、代表就任以来2年間の活動を総括され、1年目は創立20周年記念誌の発行、2年目は「日本水循環・下水文化研究協会(仮称)への改組の動き、そして本会を21世紀の水循環に関わる課題に取り組むべく「漸進的な改組」を目指していく決意が述べられました。

第1部では、稲場代表から3月30日に台北と東京で同時リモート開催された「バルトン先生復元胸像除幕式展」の報告とともに、オリジナルの胸像製作に携わった彫塑家須田速人氏及び今回復元に携わった蒲浩明(ほこうめい)氏の人物紹介、胸像復元に至る経緯が明らかにされました。こうして、台湾水道の整備に奔走し、その基礎を築かれたバルトン先生の「悠久の生命」に関する功績を称えました。また、本会の胸像復元に対する協力を謝して、台北市長から贈られた胸像レプリカが披露されました。

第2部総会では、6つの議案が審議されました。まず、先述の出席者に加え、27名が委任状を提出されましたので、総会の成立が確認されました。総会を進

めるにあたり、議長には、副代表の渡辺勝久氏が選出され、書記には高橋邦夫氏、中西正弘氏が指名され、議事録署名人に稲場紀久雄氏、酒井彰氏が選任され、それぞれ了承されました。

それぞれの議事の審議経過は以下の通りです。

第1号議案 役員改選に関する件

酒井事務局長より、運営委員10名(うち新任3名)および監事2名(いずれも新任)の候補者が発表され承認された。

新任役員は以下の通りです(敬称略)。

運営委員:佐藤英雄、清水康生、松岡隆文

監事:佐藤八雷、保坂公人

その後、運営委員の互選が開かれ、代表および副代表が次のように発表された。

代表:稲場紀久雄

副代表:渡辺勝久、酒井彰

また報告事項として新任評議員2名の追加、および感謝状の授与対象者2名の発表があった。

なお、稲場代表より、改組実現に向けて代表を1年間引き受けた旨、発言があった。

第2号議案 2020年度事業報告ならびに会員の現況報告

酒井副代表より2020年度事業報告、甘運営委員から会員の現況報告(正会員:87名、賛助会員:9団体)があり、承認された。

※ 会員に配布された総会議案書には「会員の現況報

告」のページが抜けておりました。4月1日時点の会員数をお知らせさせていただくとともに、不手際をお詫びいたします。

第3号議案 2020年度収入支出状況報告及び会計監査の承認に関する件

酒井副代表より収入支出状況報告があり、続いて、松田監事より、収支報告は適正との会計監査報告があった。

第4号議案 財産目録の承認に関する件

酒井副代表が2020年度の事業会計の財産目録および貸借対照表について報告し、決算関係の議案が一括承認された。

第5号議案 2021年度事業計画及び予算に関する件

酒井副代表より、2021年度事業計画及び予算につ

いて説明があり事業計画及び事業予算について承認された。

第6号議案 日本下水文化研究会の改組に関する再提案の件

稲場代表より昨年の改組提案を改め、本年度再提案する理由が説明され、「漸進的改組」への方針変更が承認された。

改組にあたっては、現行定款の改正が必要であり、2019年5月22日の改革答申をふまえ、定款第3条（目的）、第4条（活動の種類）および第5条（事業の種類）などを改正する必要性が説明された。さらに、財政基盤強化のため、会員制度に関わる諸規定の合理化を図る必要性とともに、新規会員拡充に向けた会員諸氏のご協力をお願いしたい旨が述べられた。

「循環」と「共生」

川と水辺を楽しむプロジェクト代表 佐藤 英雄#
(本会運営委員)#

新しく日本下水文化研究会の運営委員会に加わりました佐藤英雄です。この会と関わりを持ったのは2015年、東京・星陵会館で行なわれたシンポジウム『わが国の水政策の将来』の時でした。東京・東久留米市の講演会で稲場紀久雄先生にご面会し、シンポジウム参加を誘われたのです。

もともと川づくり、川遊びに興味を持っていて、地元の東京・石神井川で子供たちと遊んでいました。そうした中で我が国の水や川、みどりのあり様に疑問をもっていたことから、水環境問題に関わるようになりました。この会に参集される多くの皆さん方のように上下水道等の専門家ではありません。フラットな一市民にすぎません。

新潟県の山村で育ちました。母に連れられてよく野に山に行きました。母は巨樹があれば手を合わせ、湧き水のところではぐるりを掃除してから水をいただくような人でした。小さい頃から自然は大切にされるものだと思刷り込みされていたのです。「海を穢にするために山に木を植える」ことは有名な逸話です。農耕民族である日本人は、ことさら自然との共生を考えるような国民性と文化が根付いて来ました。DNAに深く刻まれているのだと思っております。しかし近年、その意識は薄れ、無くなりつつあると感じています。

元々は編集記者のはしくれ。自分の目で見、体験し

てから書くことをやって来ました。30代になったころから“まちづくり活動”や“青少年育成の活動”に参加して来ました。ボーイスカウト活動の指導者を四半世紀続けていたころ、バブルにはじき飛ばされて…。しばらくして心機一転、平成14年に横浜市から練馬区に移転しました。

その頃、練馬区では区長の呼掛けで、“区民がつくり、共有し、自ら実行する”『練馬区民環境行動方針検討会議』が設置され、94人の仲間が応募しました。

「自然環境」「まち環境」「ごみと資源」「エネルギーと環境」の4分科会に分かれて喧々諤々。私は「自然環境分科会」に参加、新参区民だったが分科会委員長を務めました。月に2回ずつ区内を歩き回り、そして1年半後に19項目の提案をまとめて練馬区長に提言しました。その大部分は水と川とみどりについてでした。

特に印象的だったのは川問題でした。当初の検討会議内では、「川に蓋を（暗渠化）して、道路、公園にしよう」との声が多かった…。私は反対でした。「暗渠にしたら川が死んでしまう！」と反論。むしろ「川を市民に顕在化して“子供たちを川に呼び戻そう”」と訴えました。1年もしないうちに“川の暗渠化”論はなくなっていきました。区民検討会議は平成16年に解散。この年、私は自然環境分科会の仲間達と『川と水辺を楽しむプロジェクト』を立ち上げて活動を始め

たのです。

最初は練馬区の自慢の一つである南田中緩傾斜護岸区域（親水護岸として喧伝され、建築関係の賞を受賞したとかで有名）での“子供たちの川遊び”企画でしたが...と切り出したところ、「川に入って遊ぶなんて！フェンスがあるでしょ。入ってはいけないんです。そうなっているんです...」と、けんもほろろの対応。いささか頭にきて、「君じゃだめだ！課長なり責任者を出して」と私。なかなか埒が開かない。それでも、間に立ってくれる人がいて...。1年後、平成17年7月ようやく晴れて川に入れることになりました。

以来18年、私達の川遊びは教育委員会の委託事業として、広報のお手伝い（区報掲載や学校、出先機関へのチラシ配布等）と若干の資金も頂いています。お陰様で主催する「親子一緒に参加する自然体験活動」講座（年間4～8回開催）は、参加申込者が募集数の



2倍以上もある人気講座です（参加者は先着順に受付）。この18年間の延べ参加者は4,235人になりました。

川のあり方、というか川づくりに一言あって活動

※ 新しく運営委員に就任されました佐藤英雄さんに川への思いや活動経験を寄稿いただきました。

しています。練馬区を西から東に貫いて流れる石神井川。全長25.2kmの1級河川です。昭和時代から始まった河川改修は残り1/4程度を練馬区内で残しています。川幅は管理道路を含めて50mほど（上流部は狭くなる）です。石神井川の左岸（北側護岸、上流から川下を見たとき左側の護岸）はいつも陽が当たり、右岸（南側）はいつも日陰になります。生物の93%は陽当たりを好むと言われます。だから日当たりの良い左岸を緩斜面にし、南斜面を急角度にする工夫等が必要だと思います。昆虫も植物も動物も、そして人間も同じ生物です。生物に優しいことは人間にも優しい、のです。これは自然共生につながるのだと思います。

ところが、行政が河川や護岸を設計すると、状況に関係なくシンメトリー（左右対称形）となります。川が東西南北どちら方向に流れているかなどは全く関係ありません。平成9年からの「新河川法」では近自然工法を謳っているのだから、配慮すべき一つではないでしょうか。

そして健全な水循環は、川、飲料水だけでなく、あらゆる生物にとって一層重要なことになると思います。



『江戸名所図会』に描かれた江戸の下水道(2)

本会会員 栗田 彰#

『静勝寺』

今回も北区です。埼京線・東北線・高崎線・京浜東北線の「赤羽」駅近くになります。

「静勝寺」は北区赤羽西一丁目に現存しています。

『北区の歴史（名著出版）』によりますと、このお寺さんは太田道灌が生前に静養した場所だった所だそうで、道灌の位牌と像が祀られているそうです。

寺の入口前の道路に「河口街道」と書かれています。この道路は「日光街道」の脇道である「岩槻街道」です。

「岩槻街道」は「日光御成道」ともいわれ、「日光道中（＝街道）」の西側に並行する脇往還でした。

日本橋を出て、本郷追分（現・文京区西片二丁目・向丘一丁目）で、中仙道から分岐して、駒込・飛鳥山を通り、十条・赤羽から岩淵（現・北区岩淵）へ出て荒川を

越え、川口（現・川口市）を通り、鳩ヶ谷（現・鳩ヶ谷市）・大門（現・さいたま市）・岩槻（現・さいたま市）を経て、幸手（現・幸手市）で「日光道中」に合流していました。

「川口宿」を通る街道だったので、『江戸名所図会』は『河口街道』としたのでしょう。

絵には街道の端に「素掘の下水」が描かれています。寺の参道や街道沿いの家々への入口の所には「下水橋」が架けられています。「下水」が街道の片側だけにしか描かれていません。単なる憶測ですが、江戸時代には将軍が日光へ行くのに通った「街道」ですから、「下水」が街道の片側にしかなかったとは思えません。

『江戸名所図会』を見ていますと、江戸の中心市街地の「下水」でも、丁寧に描かれている所もあれば、溝らしい線を描いただけのもの、全く省略されている所も



あります。

『江戸名所図会』以外の読本や錦絵などには、板や石で蓋をした下水が描かれているものもあるのですが…。

※ 栗田さんが都市計画学会から依頼された論稿「江戸の町屋の上下水道整備状況—日本橋鉄炮町を例にして」が、同学会誌「都市計画」351号の特集「清潔な都市と近代以降の感染症対策」に掲載されました

小平市ふれあい下水道館での展示企画から

屎尿・下水文化研究委員会の活動として、小平市ふれあい下水道館で展示会を行っています。6月～8月にかけて、本会名誉会員・松田旭正さんによる「船のトイレ物語」の写真展が開催されました。この展示会については、ミニコミ誌「かわや版」（株式会社アメニティ発行）で紹介されたほか、ニッポン放送のラジオ番組「上柳昌彦 あさぼらけ」では、松田さんがふれあい下水道館建設に尽力されたことを含めて、番組で取り上げられました（下記 URL 参照）。

日本で唯一「下水道を見学できる施設」はどこにあるの？ - ニッポン放送 NEWS ONLINE (1242.com)

写真展の内容については、ご本人の了解も得て会員各位に紹介するつもりですが、現在どのように紹介するかについて検討中です。

同じく、ふれあい下水道館では、10月5日（火）より、本会会員・関野勉さんによる「トイレグッズコレクション展」が催されます（11月28日まで・コレクション展のポスターは下記 URL）。玉川上水の散策などと併せて、足を運んでいただけたらと思います。さらに、来年2月からは、本会会員・森田英樹さんによる「欧州トイレ紀行（仮題）」と題する写真展が開催予定です。

スライド 1 (city.kodaira.tokyo.jp)

運営委員会より

① 研究発表会開催日程について

本年度事業計画では、11月に第16回研究発表会及び「水循環法を動かすシンポジウム」を開催する予定を立てていましたが、新型コロナ禍の収束の目途が立たないこと、総選挙が10月ないし

11月に行われることから、開催日程を来年3月に延期することにいたしました。

研究発表会、シンポジウムの企画内容ならびに、研究発表のエントリー、論文締切などの日程については決まり次第お知らせいたします。発表を予

定されておられる方には、ご連絡が遅くなりましたことをご詫言申し上げます。執筆要領等は、前回と同様にしたいと考えておりますので、ホームページを参照いただけたら幸いです。

② 本会改組にあたってのご協力をお願い

本年度総会で、本会の「漸進的發展」に向けた改組が決議されました。このため、定款の改定が必要になります。また、運営ならびに財政の安定化のため、会員拡充策の推進が事業計画として採択されました。

定款については、運営委員会で改定素案を作成のうえ、会員各位からパブリックコメントを求めたいと考えております。また、新規会員拡充に向けたご協力をお願いします。

③ 2021 バルトン忌報告

今年は、新型コロナ禍のため、とくに会員の皆様への呼びかけをせず、9月4日10時30分より参加者7名をもって、墓地清掃後、献花ならびに参拝を済ませました。来春3月、コロナ禍が収束していれば、改めて会員各位へ呼びかけさせていただく予定です。

すでに機関誌でお伝えしておりますが、稲場代表の著作「バルトン先生、明治の日本を駆ける！—近代化に貢献したスコットランド人の物語—」（平凡社刊）の台湾版が6月に発刊されました。

鄧淑晶・鄧淑宝譯「巴爾頓傳奇—百年前的台日公衛先驅—」（萬卷樓刊）

Facebook に本会のグループページを作成しました

会のお知らせを迅速にお伝えしたり、会員の皆様とのコミュニケーションを活発化したりするため、Facebook のグループページを開きました。グループにご参加いただければ、お知らせをアップした時に通知が届くようになります。投稿（短文ですが）も書き込みができますので、会員間のコミュニケーションも充実していけると思います。全会員にグループメ

ンバーになっていただきたいところですが、まずは関心のある方が増えることを願っています。参加するには右のQRコードを読み取るか、このページの下に書かれた Facebook の URL にアクセスしてください。



編集後記

ほぼ半年ぶりのふくりゅう発行となってしまいました。本来であれば、総会終了後速やかに報告しなければならなかったところですが、「運営委員会より」にありますように、総会報告と併せて、会員の皆様にお伝えする予定であった研究発表会、シンポジウムの予定が定まらなかったというのが、発行の間隔が大きく開いてしまった理由です▶会報として迅速性が求められるなか、総会報告、高橋裕名誉会員の追悼文、台湾版「巴爾頓傳奇」の発行など、機関誌への掲載が先行する形になってしま

いました。それは機関誌発行スケジュールが定まってきたことでもあろうかと思いますが、ふくりゅう編集者としては反省しなければいけないところと認識しています▶記事がいくつか揃うのを待つために、だいたなお知らせや情報共有に遅れが出ないように、記事をストックしておくことともに、SNS (Facebook) の活用を始めてみましたので、ご参加のほどよろしく申し上げます。

(酒井 彰)

特定非営利活動法人 日本下水文化研究会

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番 第3東ビル710号室

e-mail: jade@jca.apc.org

URL: <http://www.jca.apc.org/jade/index.htm>

Facebook: <http://www.facebook.com/groups/jadejapan/> (始めました！)

URL(ブログ): <http://blog.goo.ne.jp/jadetokyo>